

大丸有スマートシティプロジェクト

大手町・丸の内・有楽町地区における持続可能なまちづくりを、NTT データが共同で推進する、「大丸有スマートシティプロジェクト」についてご紹介します。

本地区は、東京駅と皇居の間に位置し、120ha の区域に約 28 万人・約 4,300 社の企業が集積するエリアです。

本地区では、情勢の変化に対応しつつ、「次のまちづくりの姿」について大丸有まちづくり協議会を中心に長年に渡り検討を行っています。

「次のまちづくりの姿」に向け、「デジタル」と「リアル」の大丸有を相互に行き交う新たな「まちづくり」を推進しており、その中心に都市 OS を構築し、各種対応を進めています。

その推進の際に、エリアの発展的課題として 4 象限で対応すべき領域を整理し、デジタルを活用したユースケースを検討・実証検証を行っています。

各種実証検証を通じ、まちづくりにおける持続可能なモデルを構築することの必要性とその解決の方向性が見え始めています。

3 か年の実証検証を通じ「5 種類のサービス」「大丸有版都市 OS」「エリア固有及び外部データ連携」のそれぞれを繋ぐシステムアーキテクチャーを構築しています。

都市のリデザイン観点においても、実証実験を通しての様々な検証を行っています。

都市のリデザイン観点での各種実証を、国家戦略特区の特例区域の認定を受けた「丸の内仲通り」を中心に行っています。

各種支援事業の採択を受けつつ、様々な対応を推進しています。次に、その中の事例を 2 つご紹介します。

データ分析 WS

2022 年 05 月 17 日（火）に NTT データ AXIS のコミュニティエリア（新東京ビル）を会場を開催

「観察型ワークショップ」の位置づけで、大丸有エリアにおける「人流データ」を取り扱い、地理空間値の視覚化にむけて「OODA サイクル」を回して頂く。

題材である「人流データ」を元にした「観察型ワークショップ」において、A チームは有楽町エリアにおける「エンターテイメント」に関心がある方の「ペルソナ設定」し、その方の行動を観察

B チームも有楽町エリアで実施している「アート」関連施策に関心のある方のペルソナ設定をし、その方のエリア内における回遊状況を観察

C チームでは、八重洲エリア、有楽町エリア、丸の内エリアでそれぞれのペルソナ設定を行い、その方々のエリア内の行動について観察

フィールドワークショップ（スイスイ車椅子編）

車椅子バスケット選手と考えるインクルーシブな大丸有スマートシティの実現

大丸有地区のエリア回遊アプリ「OhMYMap!」を使用し、車椅子ユーザーと共に地下を中心に街を巡る中で、大丸有地区の良さや課題を再発見するワークショップを実施

各種活動を大丸有スマートシティ PJ だけにノウハウを蓄積するのではなく、広く一般に公開を積極的に行っています。

現在も「フェーズ 2」と位置づけ、様々な取り組みを推進しています。

エリアマネジメントの DX 化を推進することで、より持続可能なまちづくりに向けた「あるべき姿」を今後も模索していきます。

公民連携による、多数の関係者と協力し、合意を得ながら継続的な街の価値向上への取り組みを進めています。

詳しい状況については、大丸有スマートシティ PJ における情報発信サイトがありますので、是非ともご参照ください。

まちづくりの明日を、お客様と共に NTT データ